

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	16212.12	-162.02
N Y ダウ	16,945.80	-264.26
D A X (独)	9,510.01	-151.96
FTSE100 (英)	6,639.71	-66.56
CAC40 (仏)	4,355.28	-58.44

<外国為替>※

ドル円	108.86 円	0.11 円
ユーロドル	1.2748 ドル	-0.00 ドル

<長期金利>※

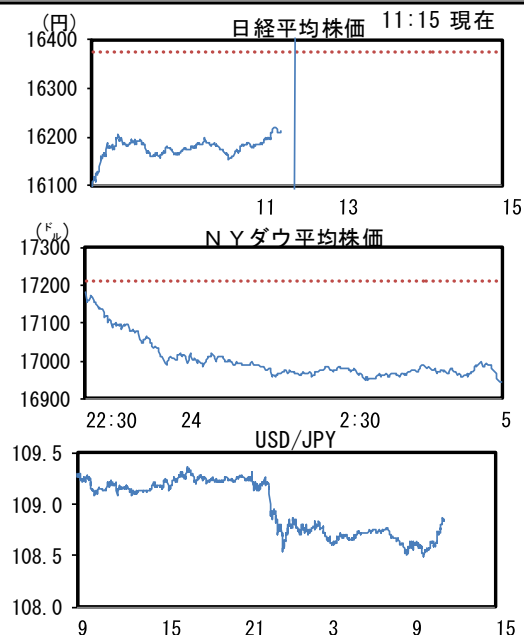
日本	0.523 %	-0.002 %
米国	2.502 %	-0.061 %
英国	2.445 %	-0.036 %
ドイツ	0.973 %	-0.031 %
フランス	1.321 %	-0.020 %
イタリア	2.360 %	-0.014 %
スペイン	2.153 %	0.003 %

<商品>

N Y 原油	92.53 ドル	-0.27 ドル
N Y 金	1221.20 ドル	2.60 ドル

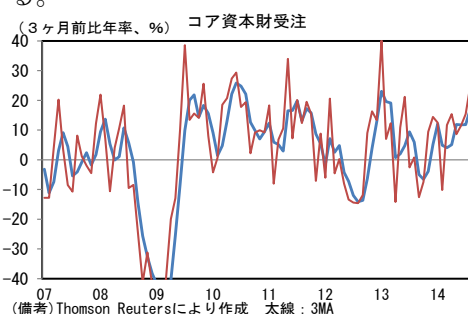
※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

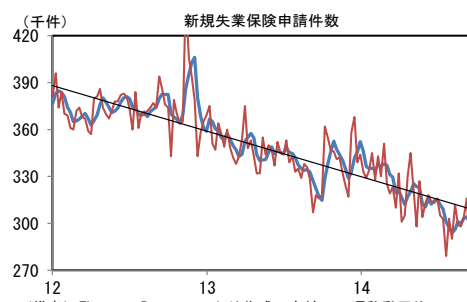


【海外株式市場・経済指標他】 ～コア資本財：非常に強い～

- ・N Y ダウ平均株価は前日比▲264.26ドルの06945.80ドルで取引終了。特段の悪材料が無いなかで急落。
- ・8月耐久財受注は前月比▲18.2%と予想に概ね一致。予想どおり民間航空機で反動減がみられた（7月+315.6%→8月▲74.3%）。輸送用機器を除いたベースは+0.7%と予想を僅かに上回ったうえ、前月分も上方修正（▲0.8%→▲0.5%）。最重要項目のコア資本財受注は+0.6%と予想（+0.4%）を上回ったうえ、こちらも前月分が上方修正（▲0.5%→▲0.2%）。3ヶ月前比年率では+17.2%と4ヶ月連続の2桁増でモメンタム加速中。I S M新規受注の急伸と整合的な非常に強い内容だ。コア資本財出荷も3ヶ月前比年率では+9.3%と受注に沿って着実に加速している。
- ・新規失業保険申請件数は29.3万人と前週（28.1万人）から微増。過去2週間程度はレーバーデーによる季節調整の歪みからボラタイルな動きとなっていたが、今回発表分はクリーンデータであり実力を示している。4週移動平均は29.85万人となり30万件割れを2週連続で達成。8月下旬から減少ペースが緩やかになり、労働市場の改善ペース加速に疑問が投げかけられていたものの、そうした懸念が杞憂に終わることを示唆している。



(備考) Thomson Reutersにより作成。太線：3MA



(備考) Thomson Reutersにより作成。太線：4週移動平均

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【外国為替相場・債券市場】～USD高けん制もどこ吹く風～

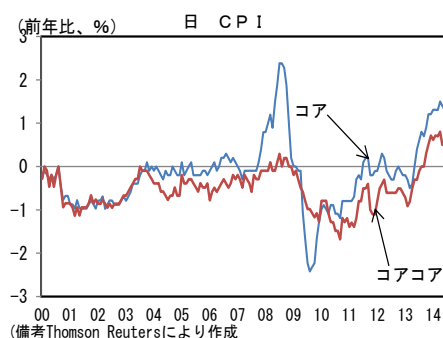
- ・前日のG10通貨はJPYが小幅ながら独歩高、それにUSDが続いた。反対にNZDはウィラー総裁のNZD高牽制発言を受けて急落、AUDもそれに追随して連れ安。USD/JPYは米国時間入り後に米株現物が安く寄り付き、米金利が低下すると急激に下落。108半ばまで水準を切り下げる場面があった。もっともUSDは他通貨に対して相対的に堅調。ロックハート・アトランタ連銀総裁は「USD高が米輸出競争力の低下を懸念させる」と発言。このところFED高官（他にダドリー・NY連銀総裁など）が相次いでUSD高を牽制しているが、今のところ市場の反応は限定的。そもそも、USD高を懸念してFEDが金融政策の舵取りを変えるとは考えにくい。26日日本時間でUSD/JPYは108半ばまで水準を切り下げた後、やや持ち直し。

- ・米10年金利は▲6.1bpの2.502%。特段のリスクオフ材料が見当たらないなか米株現物が軟調に寄り付くと急激に金利低下。欧州債市場も総じて堅調。独10年金利は再び1%を割れた。経済指標は7月ユーロ圏M3が前年比+2.0%と予想を上振れ、3ヶ月平均では+1.8%に加速。

【国内株式市場・経済指標他】～CPI：1%に接近も1%割れは回避か～

- ・日本株は欧米株急落、USD/JPY反落を受けて安寄り後、下落幅縮小。配当権利落ちも影響。

- ・8月コアCPIは消費税を除いたベースで前年比+1.1%と前月から0.2pt低下して予想を下振れた。他方、コアコアは+0.6%と前月から変化がなく下げ止まりの兆し。コアCPIは、黒田総裁が指摘してきたように“1%近傍”に接近してきたが、足もとの円安が将来的なCPI上昇要因となっているほか、円安・株高の流れも継続しており、金融市場を刺激する必要性にも乏しい。少なくとも来年4月まで日銀が追加緩和に踏み切ることはないだろう。



【注目点】～ますます自信を深めるべき～

- ・25日海外市場で米株が大幅下落。ジャンク債は急落し、VIX指数も急上昇、投資家がリスクオフに傾斜するなかUSD/JPYは反落、それを受けて日本株も下落スタートした。しかしながら、昨日発表の8月米耐久財受注統計は米景気加速シナリオを強固にサポートしており、金融市場のネガティブな雰囲気と相反する。米経済拡大とリスクオフが長期に併存する姿は想起しづらい。日本株とUSDの強気シナリオを維持する。
- ・上述のとおり8月米耐久財受注統計はヘッドラインの反動減に隠れてコア資本財受注が非常に強かった。3ヶ月前比年率では+17.2%と4ヶ月連続の2桁増で設備投資加速を強く示唆。設備稼働率が高水準を維持するなか、増産対応として企業が設備投資を決断したと考えるのが自然であり、また自然に考えられること自体が製造業セクターの活況を物語っている。受注統計は振れが大きいのが難点だが、関連指標のISM新規受注と比較しても違和感のない仕上がりで、過去数ヶ月のデータを頼りに強気姿勢を維持することの正当性は担保されている。先行きについてもフィリー指数やNFIB中小企業サーベイのサブ項目（設備投資計画）が改善しておりポジティブだ。米景気加速の確度はますます高まっており、それをカリストにUSD高と日米株高を見込む向きはますます自信を深めているはずだ。

